

## [巻頭によせて]

日本産業洗浄協議会 会長

**目黒 弘**

(日本ソルベイ株式会社 代表取締役社長)



「産業洗浄」誌は産業洗浄分野をまとめている日本唯一の定期発行誌です。その巻頭の執筆を依頼されて、洗浄に関することを書く次第です。産業洗浄の「産」の字程度の理解していない私が引き受けてよいのかしらと感じながら、この5月に会長職を拝命し、産業洗浄とは考える日々が続きます。

洗浄の世界は広い。単純に洗浄といっても、家庭での洗濯、食器洗い、掃除から始まり、機械産業での部品の油落としから付着物の除去、半導体分野での洗浄に至っては目に見える分野を完全に超えて、通常の電子顕微鏡でも見つけるのが難しい異物を取り除くことが求められています。

洗浄方法も幅広い。物理的に取り除くのか、化学的に取り除くのか、両方の方法を一緒に行うのかと考えることから始まり、物理的な方法では気体を使うのか、液体を使うのか、ブラシなどの器具を使うのか、など書き始めればすぐに一冊の本になってしまうほどです。(日本産業洗浄協議会では洗浄に関して何冊かの本を発行しています。)

化学的な洗浄を使おうとすると薬品の選択があります。最近では法律の縛りが厳しくなり、安全環境から始まり、廃棄の制限があります。そもそも、本協議会の発足はオゾン層破壊の原因と言われるCFC(クロロフルオロカーボン)の規制が始まる時にその対応として洗浄にかかわる産業界がまとまらなければならなかったためです。(この原稿を書いているときに、クロロカーボン類の新たな規制がニュースとして入ってきました。クロロカーボンの取り扱いに関して、作業管理者が必要と労働安全管理法が変更されました。)またHCFC(ハイドロクロロフルオロカーボン)は使用できなくなってからかなりの時間がたっています。一部のHFC(ハイドロフルオロカーボン)も少しずつ規制が始まっています。

また、薬品や水を使用すればその廃棄・排水の問題が出てきます。洗浄する部品もさまざまに部品ごとに洗浄ラインの設計をする必要性があります。さらに洗浄する部品の数も重要です。多い場合は、数百万の部品を洗浄、少ない場合は一つの部品を洗浄する。洗浄といっても業界により異なる世界です。

このように複雑なる産業洗浄の世界で、「日本産業洗浄協議会」の役割は大きいものです。“ものづくり基盤技術振興基本法”の中でも洗浄技術は継承されるべきものづくりの基盤です。本協議会は、一つの道しるべとなるように色々な活動を行い、会員の皆様のためになるような集まりで、洗浄に関する初級講座や洗浄大学、通信講座等を行っています。今後、薬品の管理等に当たっては流通の整備も必要になると感じています。今年は商社の方々へのセミナーを計画しています。

会長としては微力ではありますが、産業洗浄の発展に尽力致す次第です。関係各位のご支援ご協力をよろしく申し上げます。